

9つの類型

NINE PATTERNS

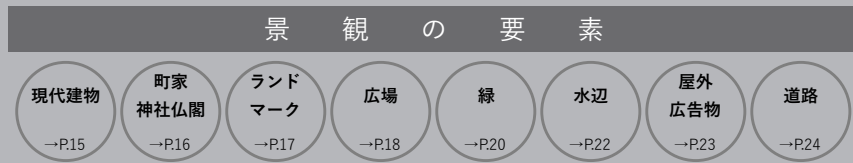
京都には様々な地域があり、それぞれの地域が個性を持っています。
そしてその異なる個性をもつ地域同士がモザイク状に重なり合うのが京都の魅力です。

では、それぞれの地域の夜の景観を特徴づけるものはなんでしょう。

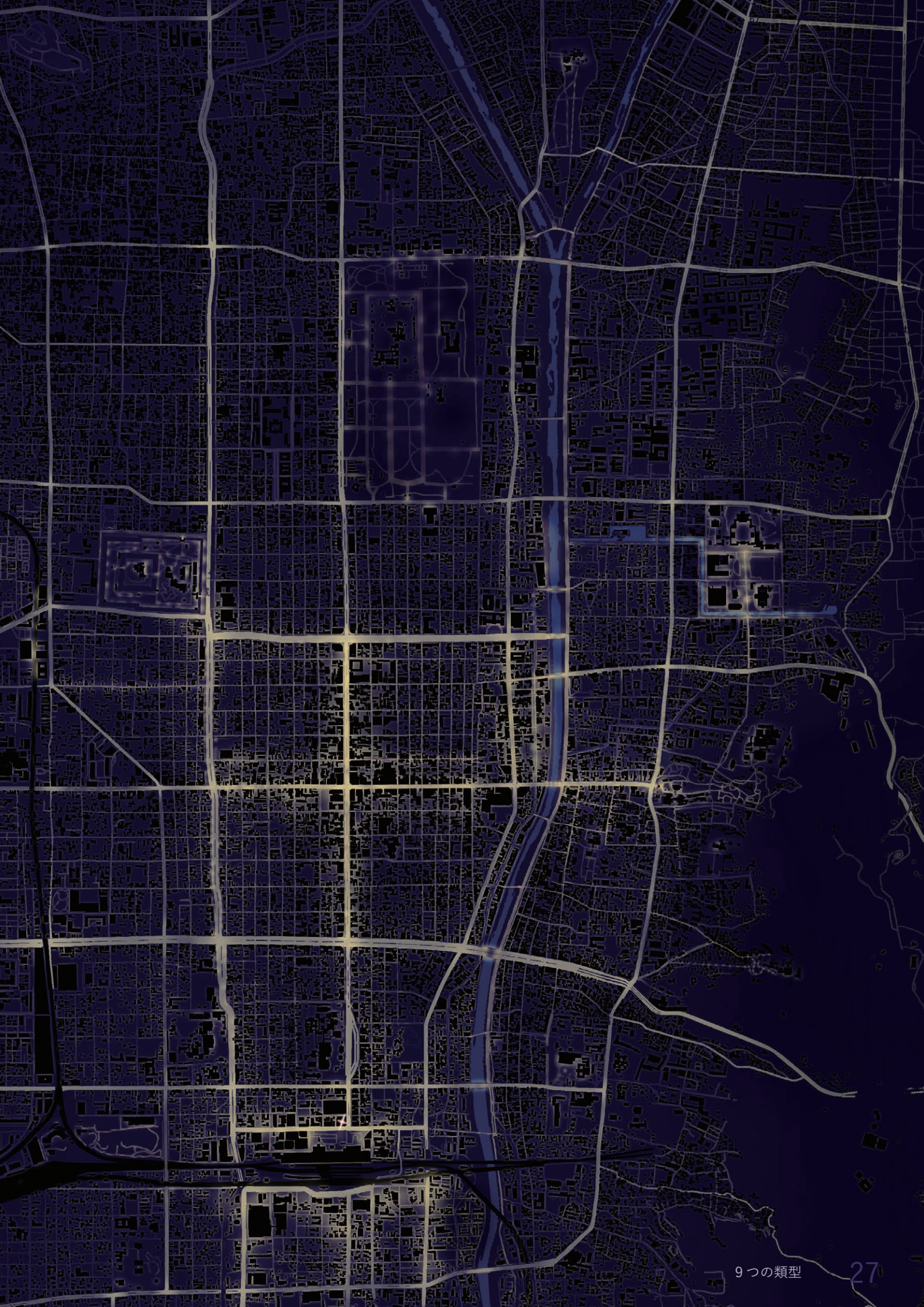
景観にはさまざまな要素が絡み合います。建物、自然、道路、街灯、看板 etc. . . .
それらの要素の在り方や関係性が、地域の景観を特徴づけます。

京都にはどのような地域があり、どのような夜間景観づくりの可能性があるのでしょうか。

京都のまちを特徴づける通りの広さや、地域に存在する景観の要素を分類・整理して9つに分け、それぞれどのような夜間景観づくりの可能性があるので見えていきます。



9つの類型	類型	景観の要素							
		現代建物 →P.15	町家 神社仏閣 →P.16	ランド マーク →P.17	広場 →P.18	緑 →P.20	水辺 →P.22	屋外 広告物 →P.23	道路 →P.24
大通り	1 繁華街 →P.28	○					○	○	
	2 オフィス街 →P.30	○			○			○	
小路	3 花街 →P.32	○	○				○	○	
	4 住宅街 →P.34	○	○					○	
	5 商店街 →P.36	○	○				○	○	
水辺	6 高瀬川沿い →P.38	○				○	○	○	
	7 鴨川 →P.40			○			○		
スパ ペリ ック	8 文化ゾーン →P.42	○	○	○	○	○	○	○	
	9 公園 →P.44				○	○	○		



繁華街

— 京都の「大通り」 —

大通り沿いでは車道と歩道が隣り合い、それぞれのためのあかりも共存する。車道では必要な明るさとメリハリによって安全性を保ちつつ、歩行者には高さの低いあかりや、アーケードのあかりだけでなく、沿道に並ぶ建物の低層部のあかりでにぎわいをつくりだす。



このケーススタディで用いている照明手法について、詳しくは…

現代建築の照明…p.15 広場の照明…p.18-19 幹線道路の照明…p.24-25



1. 横断歩道や交差点は周囲よりも路面を明るくする。明るさにメリハリをつけ、横断する歩行者の安全性を高める。
/ 2. 通りに面したビルの低中層部にファサード照明を設けることで、アーケードの上部が暗がりに沈まずに、広がり
とにぎわいが生まれる。ただし、華美にならないよう注意。/ 3. 通りに面した看板照明やサインは、華美な色彩を控
えると落ち着いた印象になる。/ 4. アーケードの明かりは電球色にするとあたたかい雰囲気になる。通行量に応じて
深夜帯に減灯されるオペレーションを行うと環境への配慮にもなる。/ 5. ランドマークとなるモニュメントにあかり
が灯っていると、地域らしさを感じるアクセントになる。

オフィス街

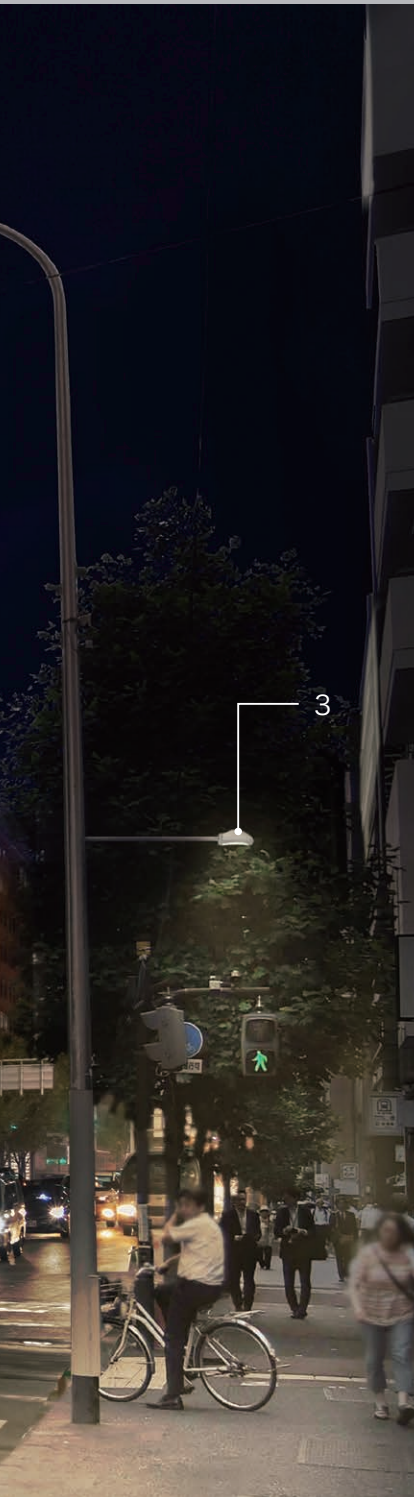
— 京都の「大通り」 —

高さのあるオフィスビル等が立ち並ぶ幹線道路沿いでは、ビルのスケールと歩行者のスケールの両方から夜間景観を考える必要がある。ビルは照明手法により、ディテールを強調して昼間とは違った表情を見せたり、スカイラインのライティングを統一することで品格を演出することも可能。低層部のあかりも配慮すると歩行者にもやさしい。



このケーススタディで用いている照明手法について、詳しくは…

現代建築の照明…p.15 広場の照明…p.18-19 幹線道路の照明…p.24-25



1. 車道の照明は、効率的に照度を得るため高い位置から広範囲を照らすポール灯が一般的。グレアに注意して、上方や横方向への光束が低減されたカットオフ型の照明器具を選定する。/ 2. 横断歩道や交差点は周囲よりも路面を明るくする。明るさにメリハリをつけ、横断する歩行者の安全性を高める。/ 3. 歩道に対しては、3～4 m程度の低いポール灯やボラード照明などの低い位置の照明があると、人にやさしい歩行空間となる。/ 4. ファサードのライトアップにより、昼とは違った表情を見せることが可能。光の色などが華美にならないように注意する。スカイラインを強調することでまち並みに統一感が生まれる。/ 5. 歩道に面した店舗やオフィスビルの低層部では、エントランスやショーウィンドーなどの明かりを閉店後も少し残すと、夜間に通行する歩行者も安心できる。/ 6. 窓の多いオフィスビルでは、オフィス室内の照明がビルの夜間景観の大きな要素となる。発光する照明器具が目立たないよう、窓際では光源遮光角が深いダウンライトを用いたり、間接照明とするなどの配慮が望ましい。

花街

— 京都の「小路」 —

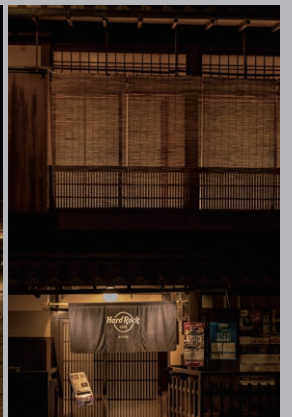
京都の伝統文化・おもてなし文化が大切に守り続けられている花街では、お茶屋建築等の花街文化を継承する歴史的まち並みが残っている。近年では多様な業種が加わってお茶屋建築の再生活用もなされ、飲食店等に利用されるものも多い。格子や提灯といった和の要素を活かした演出が可能。



1. 統一されたデザインの街灯は、まち並みの一体感を高める。電球色にするとあたたかい雰囲気になる。曇りガラスのようにシェードがかかっている灯具とすると、グレアが抑制されたやわらかい雰囲気の拡散光となる。 / 2. 光源が直接道路から見えないよう配慮するとまぶしさのない光だまりをつくることができる。 / 3. デザインや高さの統一された提灯のあかりが一体感をつくる。 / 4. 町家の格子や簾のかかる窓から漏れるあかりは、営みの気配を感じさせる。

このケーススタディで用いている照明手法について、詳しくは…

現代建築の照明…p.15 町家の照明…p.16 神社仏閣の照明…p.16 看板照明…p.23 住宅地域道路・路地の照明…p.24-25



低い色温度のあかりのあたたかみや、室内から漏れるあかりの情緒を感じられる事例。グレア（不快なまぶしさ）への配慮がなされており、やわらかく拡散する光で通りが満たされている。



飲食店の看板やのれんの照明が並ぶ。店舗の個性があるが、低い色温度が基調となっており、統一感がある。



看板ではなく、あかりで人を誘い込むような路地。



提灯や行燈が町家の軒先に並び、あたたかい光を投げかける。

飲食店の多い地域では、看板は訪れる人々の目を引くため、存在感を主張しようと過剰なライトアップになりがちである。まち並みとの調和を意識し、それぞれの個性と地域の魅力を両立するよう配慮することが求められる。

しっとりとした印象の低い色温度を基調としたり、行灯や提灯のようなグレアのない拡散光を発生する明かりを用いたり、光源を通行する人々の側から見えにくいにするなどの配慮が有効である。

また、置き型の看板については、軒先から出すぎないような設置位置とし、雑然とした配線や光源の見え方に注意する。

住宅街

— 京都の「小路」 —

夜の住宅街は、多くの人々が一日を終え静かに過ごすため、落ち着いていて、安心・安全に歩けることが望ましい。それぞれの家から漏れるあかりや門灯などのひとりひとりの灯すあかりが地域の雰囲気をつくりだす。



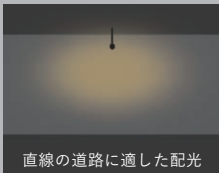
1. 道路照明は、電球色にするとあたたかい雰囲気になる。上や横方向ではなく路面に光が集約されるよう適切に配光制御された灯具を用いることで、グレアや、周辺の建物や夜空への光害もふせげる。/ 2. 集合住宅のエントランスや門灯からまちに漏れる光は、夜間に通行する歩行者にも安心感を与える。光源が直接街路から見えないよう配慮するとまぶしさのない光だまりをつくることことができる。/ 3. 高さのある集合住宅では廊下や階段などの明かりが通りからよく見えるため、照明の位置やグレア、色味に配慮する。曇りガラスのようにシェードがかかっている灯具や間接光にすることで、柔らかい印象になる。

このケーススタディで用いている照明手法について、詳しくは…

現代建築の照明…p.15 町家の照明…p.16 神社仏閣の照明…p.16 住宅地域道路・路地の照明…p.24-25



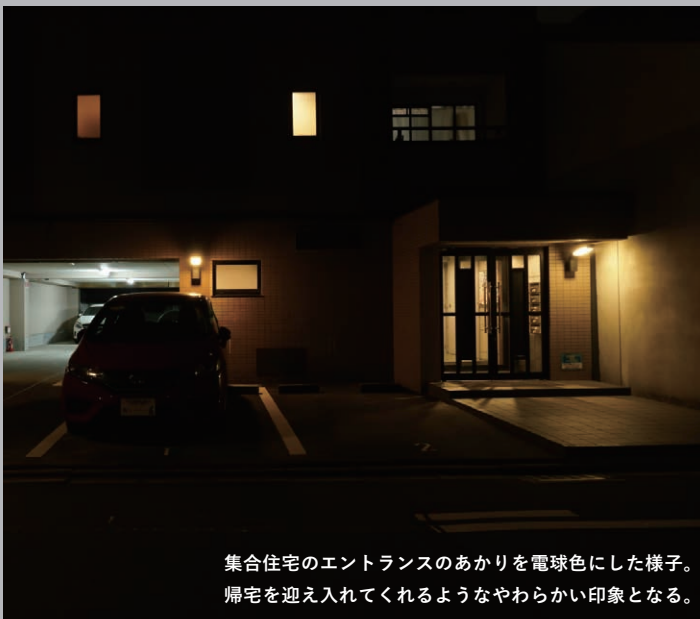
白色の光源による道路照明が続く、一般的な住宅街の街路。集合住宅や駐車場の看板照明などはいずれも同様の白色が多い。



交差点部においては、より光が前方に伸びるような配光の照明を用いて、効率よく周囲よりも高い照度を確保する。



街路灯の形状や光り方が異なっても、色温度が統一されることで一体感とあたたかみのある街路空間となる。



集合住宅のエントランスのあかりを電球色にした様子。帰宅を迎え入れてくれるようなやさしい印象となる。

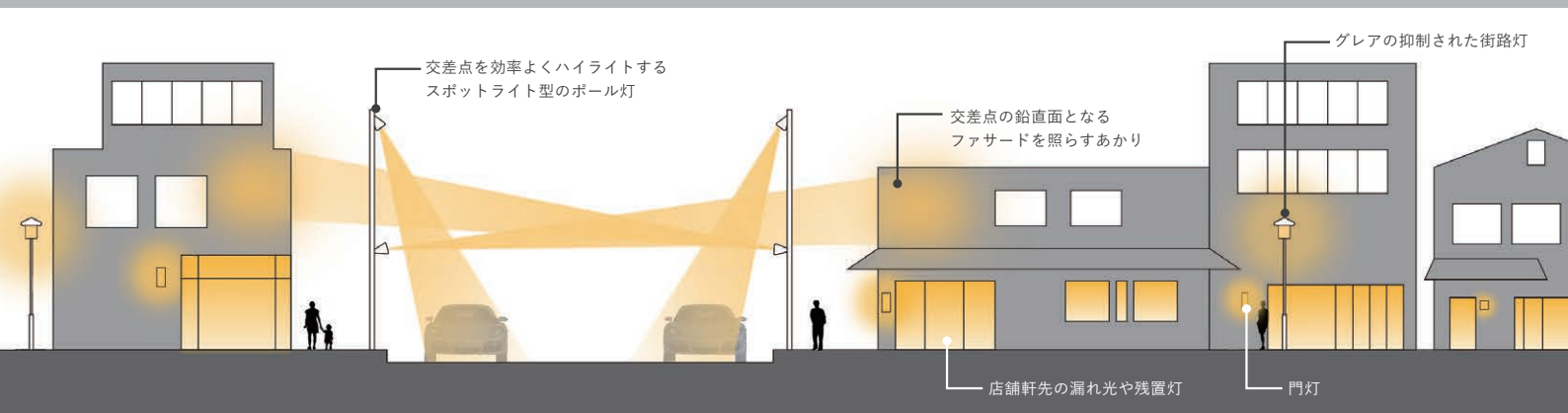


駐車場のあかりを電球色にした様子。色温度を変えて輝度を抑えるだけで大きく印象が変わる。

商店街

— 京都の「小路」 —

地域の生活に深く根付いた商店街は、生活のための買い物場だけではなく、人々の社交の場でもある。商店街やアーケードでは、地域ならではの街灯や照明のデザインに統一されたものも多く、トレードマークにもなる。



このケーススタディで用いている照明手法について、詳しくは…

現代建築の照明…p.15 神社仏閣の照明…p.16 看板照明…p.23 市街地道路の照明…p.24-25



1. 見通しのきく京都の碁盤の目状の通りでは、商店街の入り口となる交差点が顔になる。周囲に比べて照度を高くするなど、遠くからも視認できるような光を計画するとアクセントになる。車で通行するドライバーにとっては、交差点に対する注意喚起にもなる。/ 2. 横断歩道は安全のため、周囲の路面より明るくする。/ 3. 統一されたデザインの街灯は、まち並みの一体感を高める。電球色にするとあたたかい雰囲気になる。曇りガラスのようにシェードがかかっている灯具とすると、グレアが抑制されたやわらかい雰囲気の拡散光となる。/ 4. 交差点に面した建物のファサードでは、1.と合わせて、光の演出を行うと効果的である。鉛直面を照らすことで、まち並みに明るさ感を与えることができる。5. 閉店後の店舗のあかりを少し残すと、夜間に通行する歩行者も安心できる。